



齊藤勝美 彩磁夏草文大皿 昭和60年(1985) 径44.5×高5.4 cm 佐野市立吉澤記念美術館寄託

最初期の彩磁

本格的に彩磁に取り組み始めた頃の作品です。

最初期の彩磁ながら、緑色を主に、黄、青、赤の爽快な発色を得ています。しかしこれは植物の「イス」の灰を用いた自然原料による釉薬で、焼成時に大幅に減量してしまい、彫刻を覆うには問題がありました。この後はこの釉薬は用いず、化学的に精製された釉薬に切り替えています。この後数年間、発色・彫刻との相性・質感が理想的な釉薬の探求が続きます。



齊藤勝美 彩磁夏草文大皿 昭和60年(1985) 佐野市立吉澤記念美術館寄託



齊藤勝美 彩磁夏草文大皿 昭和60年(1985) 佐野市立吉澤記念美術館寄託